

まほろん

Sshirakawa since 2001



通信

Fukushima Cultural Property Centre



海沿いのむけ



企画展紹介 U15の考古学
「ふくしまの平安時代のはじまり」

館長からのメッセージ

まほろん
学芸員のひとりごと

収蔵資料紹介
「古代の木炭窯跡から出土した須恵器壺」



公式インスタグラム



公式 YouTube

写真：企画展「ふくしまの平安時代のはじまり」内覧会での様子

ふくしまの U-15 の考古学 平安時代のはじまり

文：専門学芸員 廣川紀子

2022年から続いている企画展「U-15の考古学」シリーズ。今回は平安時代にスポットをあててご紹介いたします。

まほろん企画展「U-15の考古学」は、歴史の勉強を始めた皆さんに向けた内容となっています。シリーズ3回目は『平安時代』です。

小中学校の歴史の教科書では、当時の都であった平安京での貴族社会の出来事や生活の様子を中心に解説されています。今回の展示では視点を变えて、平安京とはちがった地方のくらしぶりを取藏資料や関連史跡をもとに紹介します。

平安時代とは、延暦十三(794)年に桓武天皇が平安京に都を移してから、文治元(1185)年に鎌倉幕府が成立するころまでの約400年間にあたります。そのころの福島県は、陸奥国の一部です。国の下は、現在の市町村にあたる郡に分かれています。展示では、県南地域の白河郡と浜通り北部の郡を中心に取り上げています。

白河郡は、陸奥国の中で一番大きな郡です。白河郡の役所跡からは、租税として集めた稲を保管していた正倉が見つかっています。役所で使われた瓦や硯のほか、役人のベルトに付ける幣飾り、周辺の集落から見つかった土器や農耕具を展示しています。



内覧会での解説の様子

会期
～9月29日



新地町向田A遺跡出土の銅型から復元した瓦葺銅鐘

一方、太平洋に面した地域には、海岸から採集した砂鉄を原料にした大規模な製鉄関連遺跡が多数存在します。遺跡からは梵鐘や羽釜などの仏教の儀式で用いる仏具を鑄造した鋳型も見つかっています。実物の鋳型とともに、まほろんで復元製作した資料とあわせてご覧いただけます。

「便りあらば いかで都へ告げやらむ
今日白河の関は越えぬと」 平兼盛 (拾遺和歌集)
(便りを送ることができたなら、どう都に告げようか、今日私が白河関を越えるところだと！)

白河関を越えて陸奥国ふくしまへ。
皆さんもまほろんへ、どうぞお出かけください。



泉崎村南和久官衙遺跡2号建物跡



南和久官衙遺跡2号建物跡を復元したまほろん野外展示の正倉

こども考古学教室

こども考古学教室1 講演会
「古代のしらかわ」

講師：鈴木 功氏 (白河市文化財課)

7/21(日) 10:30～12:00

対象：小学校高学年～中学生向け
どなたでもご参加いただけます。

申込：事前申込制 (先着 40名)

こども考古学教室2 ワークショップ
「県内地名の詠まれた和歌」

講師：当館職員

8/4(日) ① 10:30～12:00 ② 13:30～15:00

対象：どなたでもご参加いただけます。
※小学校低学年以下の方は保護者同伴をお願いします。

申込：事前申込制 (各回先着 20組※1組3名程度まで)

福島県にちなんだ和歌を紹介します。
また、親子で楽しめるワークショップも
行います。

第2回 8月24日(土)

「石斧の考古学」

第3回 9月22日(日)

「縄文土器を読む—私が惚れたまほろんの一品—」

第4回 12月8日(日)

「地中から地域史を描き直す

—会津坂下町の吉田博行さんをお迎えして—」

第5回 2月15日(土)

「時間の考古学」



館長からのメッセージ

文：館長 石川日出志
(明治大学文学部専任教授)

みなさん、こんにちは！ まほろん館長の石川日出志です。

まほろんは、福島県が発掘調査した遺跡から出土した資料やデータを保存して将来に伝えるとともに、ふくしまの歴史・文化とその魅力を多くの方に知っていただくための施設です。福島県をはじめ、日本列島の各地でくり広げられた人類の歴史は約4万年間にもなります。そうした長い長いあいだの人類の生活のあとが、私たちの足元の大地に残されています。それを発掘し、そこで得られた資料をもとに住居跡や道具などを復元して展示しています。またどのようにそれらをつくり、使ったのかを知っていただくための体験の場も用意していますので、ぜひお越しください。

さて、私が考古学者になったきっかけを紹介しましょう。私は新潟県の農家で生まれ育ったので、子供のころは、一生、土の上ですごしたいと思っ

ていました。ところが高校2年生の時、友人に遺跡の発掘にさそわれて参加したのです。スコップや移植ごてを使って住居あとを掘り上げました。見つけた土器を学校に持ち帰って洗い、それとそっくりな土器が白河市の天王山遺跡から出ていたりことや、それが弥生時代であることも知るようになりました。その時、私は考古学の道に進むと心に決めました。

考古学は、遺跡を発掘して珍しいものを発見するのが面白いのだと思われがちです。しかしそれ以上に私が考古学の魅力だと思うのは、かつて発掘され、誰も知っている資料を自分の目で観察し直して、新しいことに気づく点です。たくさんの発掘品をよ〜く見ることを何度も繰り返すと、ある瞬間に頭の中に新しい発見がひらめきます。その時の喜びはひとしおです。あなたもそんな体験をしてみませんか？

今号からはじまったこのコーナーですが、まほろんの学芸員が代わり番子に適當なことをつづるコラムなのだそう。第一回は、まほろんの職員が日々何をしているかについて書いてみようかと思えます。

まほろんの職員は、見やすくなりやすい展示、展示内容の理解を深める講演会、楽しめる体験学習、関心を持ってもらえるようなポスター・チラシ……様々なことを、時には研究し、時には工夫を凝らして企画、実行しています。

また時には「何をしているんですか」と言いたくなるようなことも。

バックヤードで発泡スチロールを削る職員。この人は、展示に使う模型を作っています。電動ノコギリを使って材木を切る職員。この人は資料を見やすく

展示するために、特製の展示台を作っています。

朝、テレビアニメ「ガンダム」に出てくる大口径のビーム兵器のようなプロローを持って外に行く職員。この人は駐車場や園路の落ち葉を片付けています。

脚立と高枝切りバサミを担いで行く職員。この人は体験広場の木に引っかかっている折れた枝を落としています。

復元住居でたき火をする職員。この人は焼き芋好きなわけではない、かやぶき屋根を維持するため、中をいぶいています。

伸縮自在の棒を持って歩く職員。この人はエントランスホールの高い天井の照明を交換しようとしています。

すべて、みなさんにまほろんで安全に楽しく過ごしてもらうための準備なのです。

まほろん

学芸員の
ひとりごと

第一回

文 山元由
(学芸員課長)

古代の木炭窯跡から出土した須恵器壺

いづの
須恵B遺跡(相馬市)

相馬地域開発にともなった発掘調査でみつかった遺物をご紹介します。

文：学芸員 能登谷 宣康



平成4年11月下旬のある日、古代の木炭窯跡を調査していた時のこと。窯跡内に埋まった土を取り除いていたところ、突然、目の前にぽっかりと空洞が現れました。中を覗いてみると、この窯跡の奥壁付近の天井が崩れずに残っていることが見て取れ、視線を落としたその先に1個目の壺を発見しました。その後、その周囲の土を丁寧に除去したところ、さらに4個の壺が寄り添うように出土しました。実は、これらの壺はこの木炭窯跡で焼成されたものではなく、近接する平安時代の



写真1 須恵器壺の出土状況

須恵器窯跡で焼成されたものです。写真1でわかるように、全て横たわっていますが、この木

炭窯跡の操業後に天井がかなり崩れ落ちた段階で窯内に置かれたもので、本来は正立していたものと推測されます。また、これらの壺は口の一部分が欠けたり、胴や底にヒビが入っているものばかりで、実用的ではありません(写真2)。



写真2 出土した須恵器壺

元来、窯には神霊が宿るとされ、窯に火入れを行う際には「釜鎮め」の儀式を行い、また、窯は異界への出入口ともされ、封じない限り悪霊も出入りすることから、廃棄に当たっては「釜封じ」の儀式が執り行われていたようです。おそらく、本遺跡の須恵器工人が斜面に使わなくなった木炭窯跡の大きな穴を見つけ、意図的に使えない須恵器の壺を窯内に置いて「釜封じ」の儀式を行ったのではないのでしょうか。

今後のスケジュール

7月

2日(火)～8月31日(土)

まほろん夏休み特別休館

21日(日)

こども考古教室1

27日(土)・28日(日)

U-15実技講座「土器づくり」

8月

4日(日)

こども考古教室2

24日(土)

第2回館長講演会

25日(日)

実技講座

「土管をつくらう」

10月

13日(日)

実技講座「大塚相馬焼に挑戦①」

20日(日)

第4回まほろんの森

26日(土)

企画展「この木、なんの木?」

前田通博「縄文時代の植物利用～」

9月

8日(日)

第3回まほろんの森

22日(日・祝)

第3回館長講演会



団体見学の体験活動の様子

- 団体見学の体験活動メニュー
- 勾玉づくり
 - 火おこしに挑戦しよう
 - 縄文マグネットづくり
 - ミニミニ土器づくり
 - 本格的な土器づくり
 - 昔の道具にふれてみよう
 - グループで考えよう(土器片観察)

—は有料です。
詳しくはHPをご覧ください。
※事前申込が必要ですよ

編集後記

まほろんの森には夏になると、カエルにバッタやトンボ、セミやカブトムシ(もいるかも?)も集合して賑やかになります。見学の合間にのぞいてみてはいかがでしょうか?



まほろん
通信
vol. 92

令和6年7月10日発行

開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(7/15、8/12、9/16、9/23、10/14を除く)、祝休日の翌日

入館料 無料(体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。)

まほろん
福島県文化センター 白河支所

〒961-0835
福島県白河市白坂一里段 88
FAX 0248-21-0700
Fax 0248-21-1075
ホームページ



HP

MAP